

# 食品産業 センター 途上国の栄養改善へ

## 支援事業に関するセミナー開催

食品産業センターは2月20日、都内で栄養改善ビジネスの国際展開支援事業に関する国内セミナーを開催した。冒頭あいさつした村上秀徳理事長は「栄養改善推進事業プラットフォーム

は官と民が連携して途上国の栄養改善を推進する目的で、昨年9月に発足した。主役は民間であり、今回のセミナーはそれぞれの企業が栄養改善事業を持統的に

推進するために、ビジネスモデルを構築するヒントを得てもらおうという趣旨で開催した。CSR（企業の社会的責任）を超えて、最近ほCSV（共有価値の創造）が言われる。本業により近い形で戦略的に企業活動を目指すものだ。個々の事業レベルで具体化が大切だと思ふ」と述べた。

セミナーでは4人の講師が講演したが、このうち、味の素ファンデーションの栗脇啓氏の「栄養分野における日越官民連携」の概要は次のとおり。

ベトナムにおいて、地域



栗脇氏

の食文化に合わせた学校給食プロジェクトを12年から実施し、現在、600校で採用されている。給食にはベトナム味の素の調味料も使われており、ビジネスとしても期待できる。

導入までには、大きな困難があったが、最大のものは戦後の日本と同様、学校で給食が必要なのかという点。日本での過去の事例等を説明し、国の承認を得た。学校関係者へのプロジェクト説明、給食調理人の指導・調理試作を経て導入に至った。また栄養士の必要性からハノイ医科大学に4年制栄養学士コースを開設、昨年1期生43人の栄養士が誕生した。全国で学校給食を実施するのはまだ先が長い。道筋はつけられた。